

第2章 まちづくりの目標

この章では、今後野田市が目指していく将来像や基本目標とともに、将来の野田市の骨格を形成するゾーン、軸、拠点の三つの柱を基に、将来の都市構造について整理しています。

- 2-1 将来都市像と基本目標
- 2-2 将来都市構造

第2章 まちづくりの目標

2-1 将来都市像と基本目標

都市の発展の経緯や社会動向などを踏まえた今後の野田市のまちづくりについては、これまでの発展の方向性を継承し、望ましい将来の姿を構築していく必要があります。近年における人口減少・少子高齢社会の到来に対応し、高齢者も含めた多くの人にとって暮らしやすく、多様な都市機能が集積したコンパクト（*11）なまちづくりを目指し、都市間競争に打ち勝つ利便性、住みやすさ、生活環境の一層の向上を図り、それらの成果として若い世代が集い、バランスのよい世代構成を実現することで、今までよりも更に、より多くの市民の力をまち全体の活力の創出と向上につなげていくことが重要となっています。

今後の野田市のまちづくりにおいては、計画されている東京直結鉄道（地下鉄8号線）の整備による利便性の向上をいかした都市機能の充実、地域の良き資源である自然環境の保全・活用、都市基盤整備の推進による住環境の向上はもとより、近年進展が著しい情報化社会への対応による活力ある地域社会づくりや、ノーマライゼーション（*12）社会の構築など、様々な分野において更なる発展を目指したまちづくりを推進していくことが求められます。その過程において、様々な市民の参加や市民と行政との連携が大切となり、さらに、魅力あるまちの実現に向けて市民自らの努力も重要となっています。新しいマスタープランの策定後においても引き続き、市民と行政との協働作業により、継続的かつ計画的なまちづくりを進めていくこととなり、マスタープランに掲げる将来都市像や基本的な目標については、長期にわたって市民と行政の共通したまちづくり理念となるとともに、まちづくりの主役となる市民にとって分かりやすいものである必要があります。

そこで、本マスタープランにおける将来都市像及び基本目標は、総合計画に掲げる将来都市像及び基本目標と同様のものとし、以下のとおり設定します。

●将来都市像

～人のつながりがまちを変える～
みんなで作る 学びと笑顔あふれる コウノトリも住めるまち

●基本目標

- ① 自然環境と調和するうるおいのある都市
- ② 生き生きと健やかに暮らせる都市
- ③ 豊かな心と個性を育む都市
- ④ 安全で利便性の高い快適な都市
- ⑤ 市民がふれあい協働する都市
- ⑥ 活力とにぎわいに満ちた都市

2-2

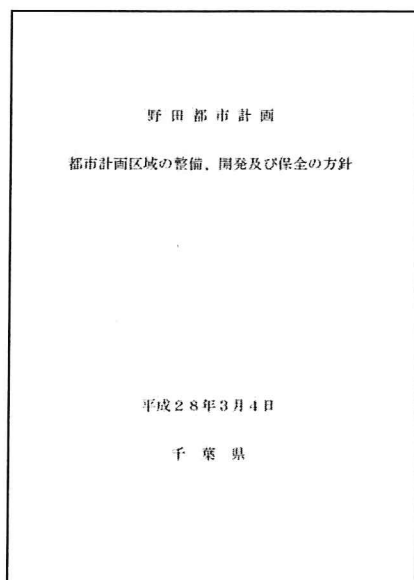
将来都市構造

1) 将来都市構造構築の基本的考え方

野田市都市計画マスタープランにおける将来都市構造は、県が定める「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」や「野田市総合計画」などの上位計画において既に示されている、都市の骨格となる道路や土地利用の方向を踏まえて、より具体的に将来の望ましい都市の姿を明らかにするものです。

したがって、将来都市構造の構築に当たっては、「野田市総合計画」で示されている都市構造・土地利用の方向を、都市計画の視点から更に深く掘り下げていく必要があります。

このため、新総合計画策定過程の中で頂いた市民と総合計画審議会委員の意見を尊重し、将来都市構造を構築するための課題を抽出し、この課題に基づいて、より具体的な将来都市構造を描いていきます。

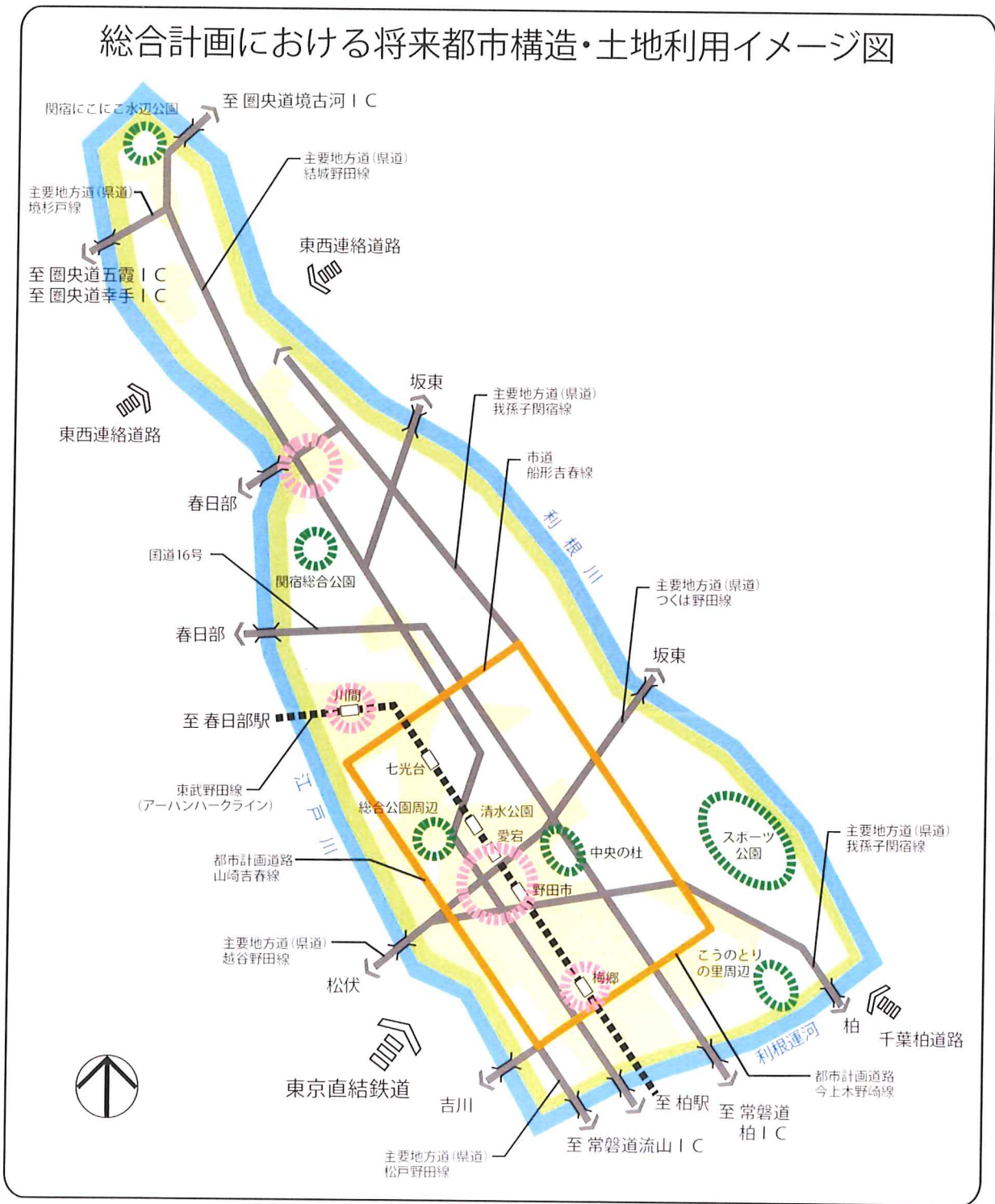


都市計画区域の整備、開発及び
保全の方針



野田市総合計画

総合計画における将来都市構造・土地利用イメージ図

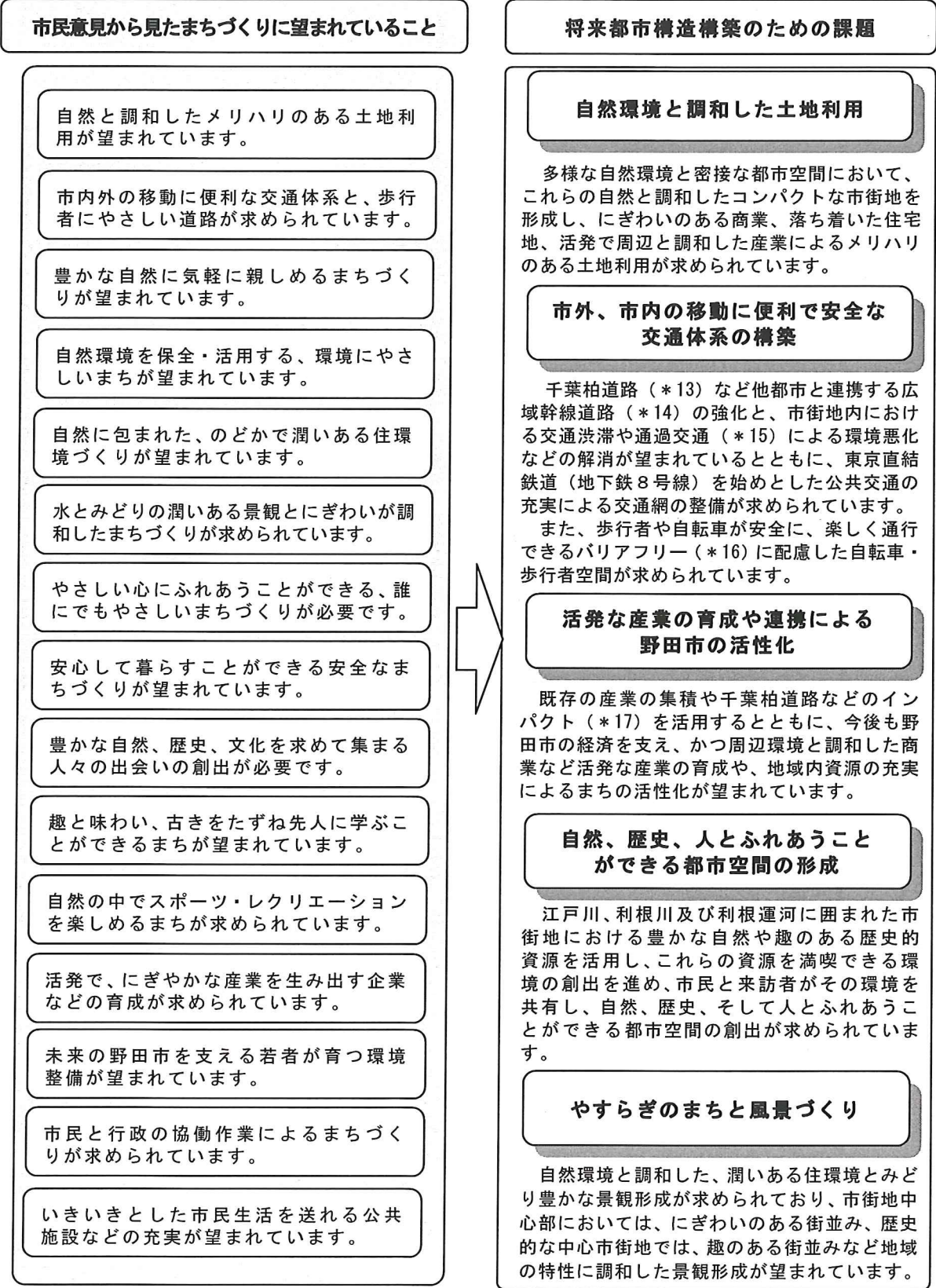


凡例

- | | | |
|----------------|--------|---------------|
| 市街地ゾーン | 幹線道路 | サービス核 |
| 農業振興ゾーン | 外郭環状道路 | 緑地・レクリエーション拠点 |
| 緑地・レクリエーションゾーン | 鉄道 | 河川 |

2) 将来都市構造構築のための課題

当初のマスタープラン策定時における市民参加により得られた意見を同類の内容ごとにまとめ、そこから導き出される将来都市構造構築のための課題を整理します。



3) 将来都市構造

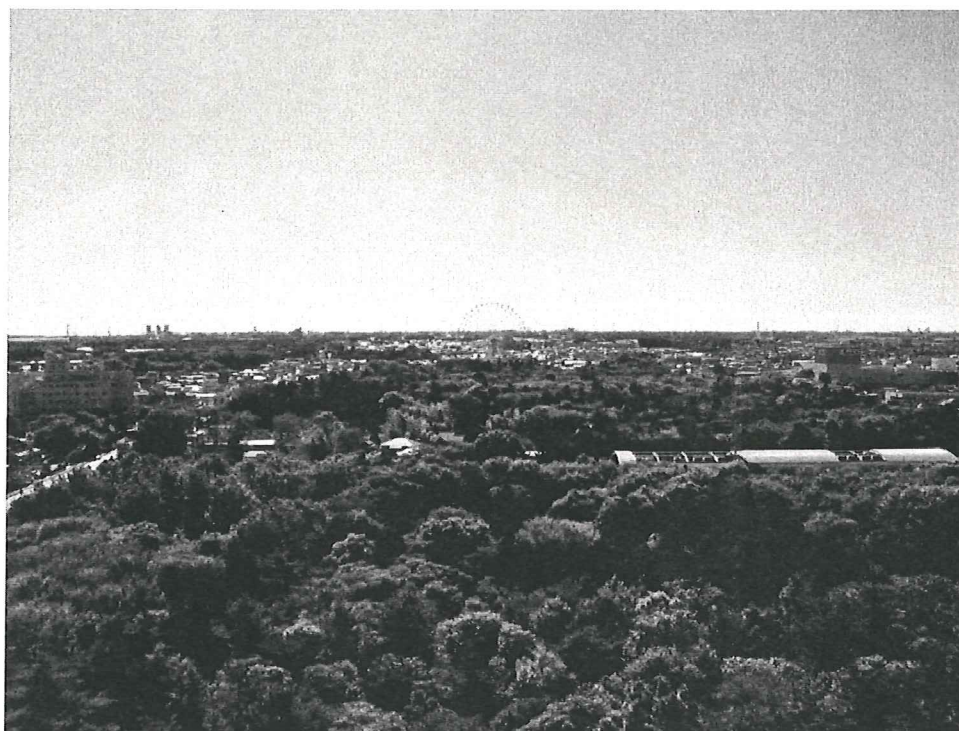
前項の課題に対応した将来都市構造を構築するには、自然環境の保全や良好な居住空間を創出するためのゾーンの形成、にぎわいや活力を生み出すための拠点の形成、地域間や市内での連携を強化する広域的な交通の軸などが必要となります。これらのゾーン、拠点、軸を適正に配置するとともに、東京直結鉄道（地下鉄8号線）や千葉柏道路のインパクトを念頭に置きながら、これらの将来都市構造を構成する要素とその内容を整理します。

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
自然環境と調和した土地利用	市街地ゾーン	<p>これまでの発展の経緯や市街化の動向などを踏まえ、野田地域は、主に国道16号以西を市街地ゾーンとして位置付け、豊かな自然環境や歴史的資源と調和した市街地の形成を図ります。また、関宿地域においては、関宿北部地区と関宿中部地区において面的な整備が行われている地域を市街地ゾーンとして位置付けます。</p>
	農業振興ゾーン	<p>野田地域は、主に国道16号以東を都市における農業振興ゾーンとして位置付け、農業環境の保全を図ることはもとより、市民の憩いの場の提供のため、農地・緑地などの多様な自然資源をいかしたみどり豊かな空間形成を図ります。また、関宿地域においては、河川沿いに広がる優良な一団の農地の保全を図ります。</p>
	広域拠点	<p>野田市駅、愛宕駅周辺を、全市及び広域を対象とする商業機能や、東京直結鉄道（地下鉄8号線）のインパクトを利用した交通結節機能（*18）の役割を担う広域的な性格をもった拠点として位置付けます。</p> <p>【野田市駅周辺】 既存の伝統産業を保全・活用し、魅力的な景観形成を図るとともに、商業・業務など各種サービス機能や駅前広場、駐輪場などの都市機能の集積とあわせ、回遊性のある野田市の中心としての都市空間の形成を図ります。</p> <p>【愛宕駅周辺】 周辺の市街地整備と一体的な商業・業務機能の集積と駅前広場や駐輪場などの整備を推進するとともに、だれもが快適に暮らせる市街地の形成を図ります。</p>

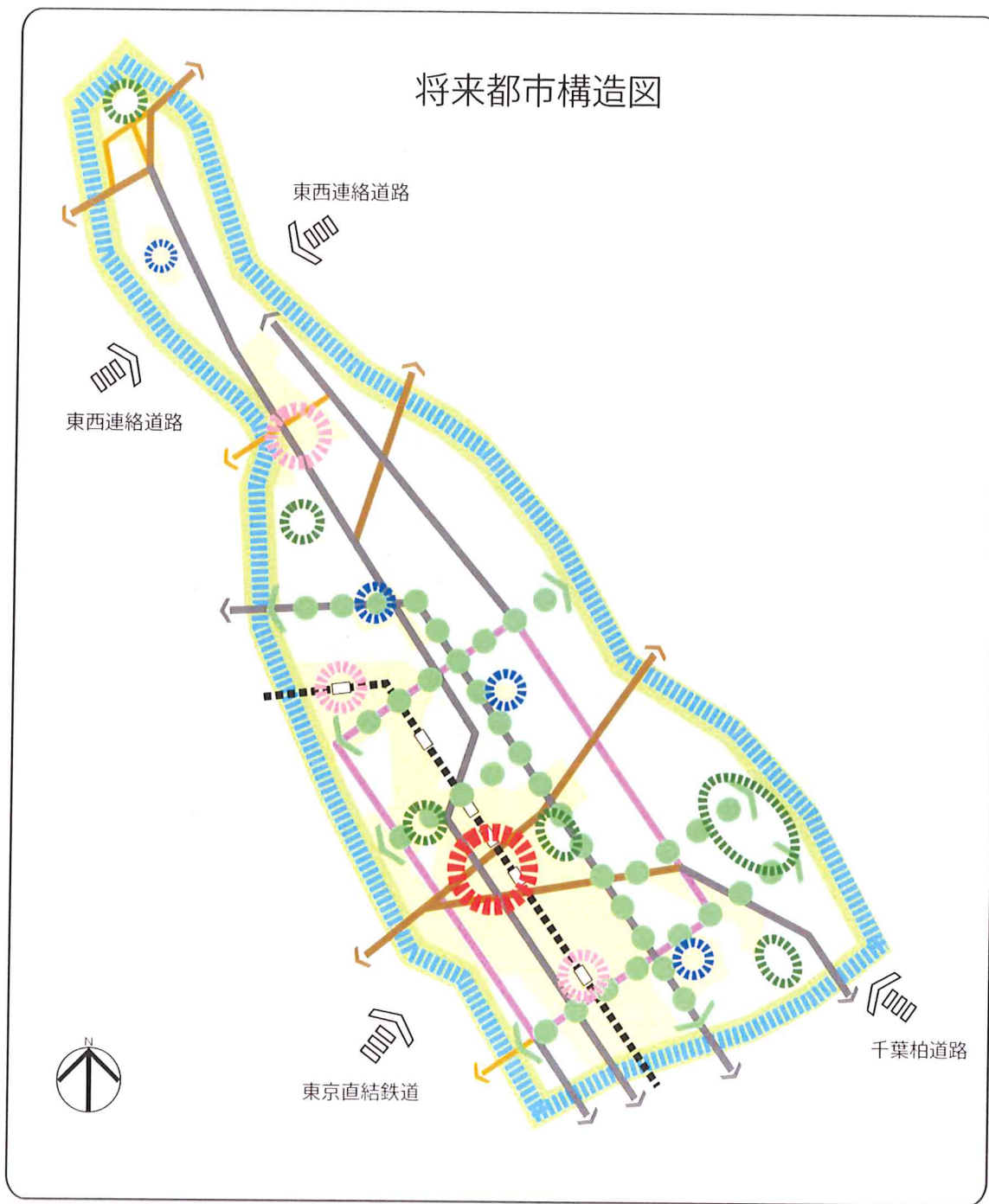
将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
自然環境と調和した土地利用	地域拠点	<p>川間駅、梅郷駅周辺、関宿中央ターミナル・関宿支所周辺を、地域住民の日常生活を支える商業サービスや交通結節機能を備えた地域の拠点として位置付けます。</p> <p>【川間駅周辺】 駅前広場や駐輪場などの都市施設の整備を推進するとともに、都市機能の集積による利便性の高い拠点形成を図ります。</p> <p>【梅郷駅周辺】 南の玄関口として、駐輪場などの周辺の市街地整備とあわせた商業集積を図るとともに、都市機能の集積による利便性の高い拠点形成を図ります。</p> <p>【関宿中央ターミナル・関宿支所周辺】 関宿地域の中心として商業業務地の形成を図るとともに、土地区画整理事業により落ち着いた街並みと調和した住宅市街地としての拠点形成を図ります。</p>
市外、市内の移動に便利で安全な交通体系の構築	南北軸	<p>南北方向の広域的な幹線道路である、国道16号を南北軸として位置付け、交通混雑緩和のため、機能強化（千葉柏道路の早期整備）を促進します。あわせて、主要地方道結城野田線、我孫子関宿線及び市道山崎野田線を南北方向に形成された市街地の各拠点を短時間で結ぶ移動の軸として形成を図ります。</p>
	東西軸	<p>東西方向の広域的な幹線道路である、主要地方道つくば野田線、越谷野田線、野田牛久線、境杉戸線バイパス（都市計画道路台町元町線）及び一般県道岩井関宿野田線を東西軸として位置付け、交通混雑緩和のため、機能強化を確保します。また、首都圏中央連絡自動車道の整備とあわせて、東西方向の拠点や市街地を短時間で結ぶ移動の軸としての道路の整備を促進します。</p>
	環状軸	<p>都市計画道路山崎吉春線、今上木野崎線及び市道船形吉春線、主要地方道松戸野田線（一部の区間）、我孫子関宿線（一部の区間）などを環状軸として位置付け、市街地内への通過交通を排除するとともに、地区間の移動の軸としての形成を図ります。</p>
	公共交通軸	<p>東武野田線を公共交通の軸として位置付け、連続立体交差事業による高架化及びそれを契機とした複線化を促進します。また、市民の通勤、通学等日常生活の利便性の向上に向けて、東京直結鉄道（地下鉄8号線）の整備を促進します。</p>

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
活発な産業の育成や連携による野田市の活性化	産業拠点	<p>【中里工業団地】 中里工業団地については、周辺の自然環境に配慮した産業拠点とし、川間地区における職住近接のまちづくりのために就業の場を確保します。</p> <p>【南部工業団地、野田工業団地】 南部工業団地、野田工業団地は、東京理科大学に隣接する立地条件をいかし、産学官交流のある産業拠点として形成を図ります。</p> <p>【泉地区】 泉地区は、国道16号沿道の利便性をいかした土地利用を図り、良好な操業環境を創出しつつ、周辺環境との調和に配慮した良好な産業拠点の形成を図ります。</p> <p>【関宿はやま工業団地】 関宿はやま工業団地は、北関東及び東北方面へのアクセス（*19）に優れた立地性をいかし、産業基盤の充実・強化や地域経済の活性化及び雇用の確保等を図ります。</p>
自然、歴史、人とふれあうことができる都市空間の形成	緑地レクリエーションゾーン 緑地レクリエーション拠点	<p>利根川、江戸川及び利根運河沿いの広大な自然環境の下、自然に親しみながら多様なスポーツ、レクリエーション活動の場として位置付け、サイクリング道路などの整備充実を促進します。</p> <p>【中央の杜】 中央の杜を野田市のみどりのシンボルとして位置付け、市民と行政の協働による山林の保全に努めるとともに、市民の郷土意識の醸成を推進します。</p> <p>【野田市総合公園周辺】 自然の中での多様なスポーツ、レクリエーションの場として位置付け、施設の整備を推進するとともに、周辺の山林などの自然環境の保全・活用を図ります。</p> <p>【野田市関宿総合公園】 多様なスポーツ、レクリエーションにより市民の交流を深める場として位置付け、スポーツの振興を図ります。</p> <p>【野田市スポーツ公園】 自然とふれあうことができるスポーツ、レクリエーションの場として位置付け、自然の中での多様なスポーツや自然教育に対応した施設の整備を推進します。</p> <p>【関宿にこにこ水辺公園】 利根川、江戸川の分岐地点に位置する関宿城博物館を中心とした広域的なレクリエーション需要を満たす緑地として保全及び利用を推進します。</p> <p>【こうのとりの里周辺】 コウノトリをシンボルとした生物多様性（*20）の取組等を充実、発展させ、自然環境の保全、再生、利活用を推進します。</p>

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
やすらぎのまちと風景づくり	水の軸	利根川、江戸川及び利根運河の広大な水辺空間を「水の軸」として位置付け、水の持つ潤いややすらぎを享受できる環境づくりを進めます。さらに、これらの河川と河川敷が一体となっ て作り出す開放的な景観や分岐点付近の特徴的な水辺景観を堪能することができる河川の保全に努めます。
	みどりの軸	利根川、江戸川及び利根運河沿いの豊かな自然環境を始めとした大規模な緑地を大きな骨格として、中央の杜や国道16号沿道の山林などを相互に結びつける「みどりの軸」として位置付け、みどりの保全や創出に努めます。



■ 中央の杜



凡 例

市街地ゾーン	南北軸	広域拠点
農業振興ゾーン	東西軸	地域拠点
緑地レクリエーションゾーン	環状軸	産業拠点
	幹線道路	緑地レクリエーション拠点
	公共交通軸 (複線化の促進)	水の軸
		みどりの軸